

授業だより No. 6

押水第一小学校
令和6年10月29日

すみれ学級研究授業 自立活動「ボッチャ新聞をつくろう」 (授業者 高田)

10月17日(木)にすみれ学級自立活動「ボッチャ新聞をつくろう」の研究授業を行いました。授業後には、授業整理会、中能登教育事務所の山崎指導主事からの指導助言がありました。



授業全般について

- 普段のアドジャンなどの様子から、子どもたちの力だけで言語活動が進められると思われた。1つ1つ教師が子どもたちに確認、説明したりするのではなく、子どもたちの主体性やコミュニケーション力を大切にしながら、授業を進めるとよい。

互いに書いた文章を見合ったり、確認し合ったりする方法を自分たちで考えたり、子どもたち自身が自ら考える場面づくりをしたほうがよい。教師は黙ってそれを見守り、子どもたち自身がコミュニケーションをとりながら、言葉をどう変えるのか、写真を根拠に考えるのか、実際にボッチャをしてみるのか、など選択の場面を設けることで、子どもの主体性や自己決定する場面が確保されると思われた。

教室環境について

- 児童の顔写真など自分を意識できる掲示が教室内に多くあり、児童の「自己存在感」を確認できる環境となっていた。
- 児童の座席位置は、お互いの表情を確認できるような座席位置にしたほうがよい。一直線に机を並べるのではなく、少し傾けて児童同士が表情を意識できる位置がよい。それが子どもたち同士の良好な関係づくりにつながると考える。
- 黒板回りには、児童の視界に入るものは極力省くことが望ましい。黒板消しクリーナーや、雑巾かけなどは、置く場所を変更するとよい。
- 授業づくり、教室環境ともに生徒指導の4つの視点を意識していくとよいので、日頃から意識してみるとよい。